

＜ 今日の説教のポイント 創世記 45 章 1-8 節 ＞

ノーベル文学賞作家トーマス・マンが取り上げずにおれなかった物語。

1 ヨセフ物語の概要

父親にかわいがられたヨセフは、腹違いの兄たちによって妬まれ、エジプトに売り飛ばされ、多くの苦しみを経験します。しかし重臣となったヨセフは兄たちと再開する機会を得、彼らを赦したのです。なぜか？

2 赦せた理由 1 ヨセフが兄たちにしたこと、罪に深く気づかせる。

兄たちだと気づいたヨセフは奇妙な一計を案じ、同じ母から生まれた弟ベニヤミンを奪い取ろうとします。兄たちへの困らせ嫌がらせか？ そうではなかったのです。兄たちは、父ヤコブがベニヤミンをも失った時の悲しみの大きさを思い巡らし、自分たちがヨセフにしたことの罪の大きさに気づいたのです。「神が僕どもの罪を暴かれたのです」(44:16) 兄ユダの言葉とそれに続く告白 (44:18-34)。ヨセフが黙っていることに耐え切れなくなった理由がここにあります。

3 赦せた理由 2 恵の神様を信じ、その視点から考える人ヨセフ。

では、兄たちが罪を悔いたからヨセフは赦せたのでしょうか？ この話はそれで終わらないのです。トーマス・マンを書かずにはおれない思いにさせたのは、ヨセフが語った言葉「神がここに私を使わされたのです」(5, 7, 8)です。聖書が伝えようとしていることは「人間の心の持ち様一つで人生は変わる」ということではありません。もっとスケールの大きなことです。ヨセフは、初めから最後まで、恵みの神様の存在を信じており、その信仰告白がここに示されていると言える言葉です。この神様から考えて生きて来た人なのです。

4 ヨセフとは誰か 「苦難の主の僕」、そしてイエス・キリスト。

このヨセフは、聖書の中の「苦難の主の僕」(イザヤ書 52:13-53:12) とイエス・キリストに重なります。どちらも神様が遣わされる存在で、前者がその預言、後者がその成就であることを聖書は告げており、それぞれが負う苦難は私たちの罪の重さであることを告げています。

5 私たちも赦せるか？ 赦せないから赦される、そして赦せる者に。

私たちは自分を見つめ続けているだけでは赦せる者にならないでしょう。この話を通して神様が語りかけて下さっていることは、「あなたの罪を恵みに変えることのできる私がいるのだ。その私を見つめて生きる者となりなさい、その先もそれで変わって来るから」と。